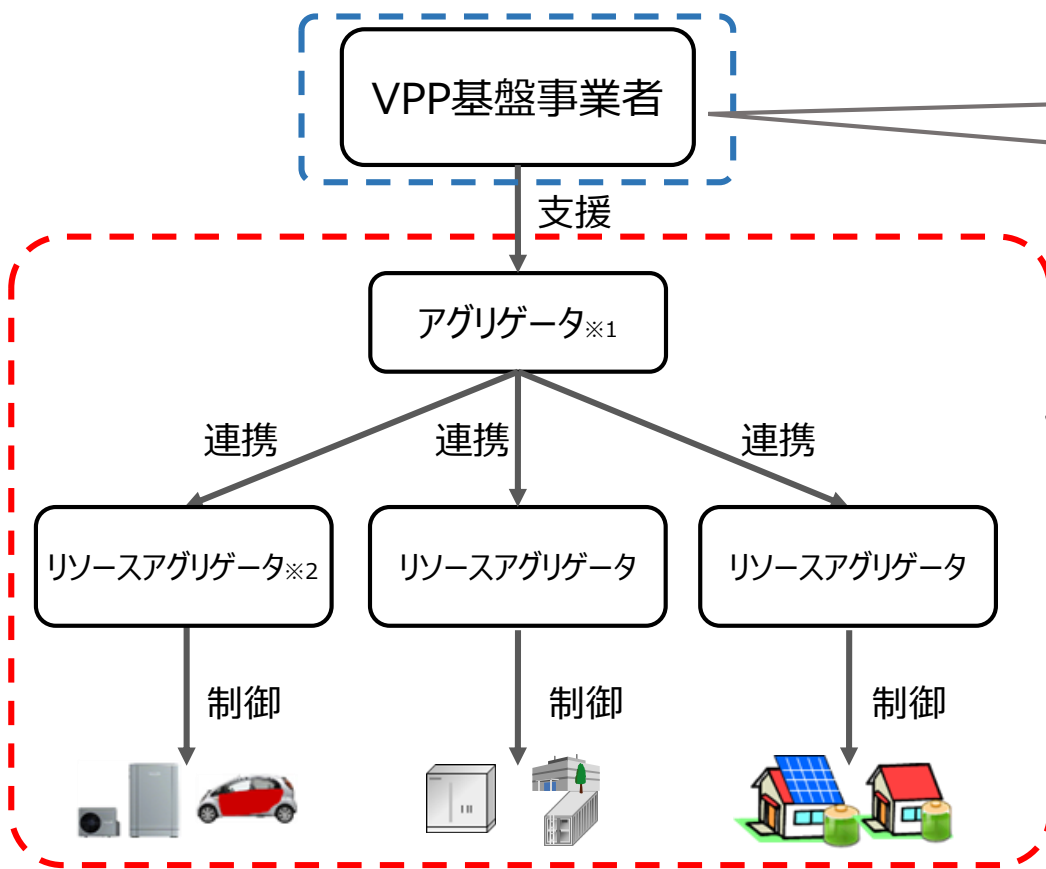


バーチャルパワープラント構築実証事業の枠組みにおいて、家庭用蓄電池を活用した電力システムの安定化に活用する取組みを実施

【VPP構築実証事業における本取組みの位置付け】



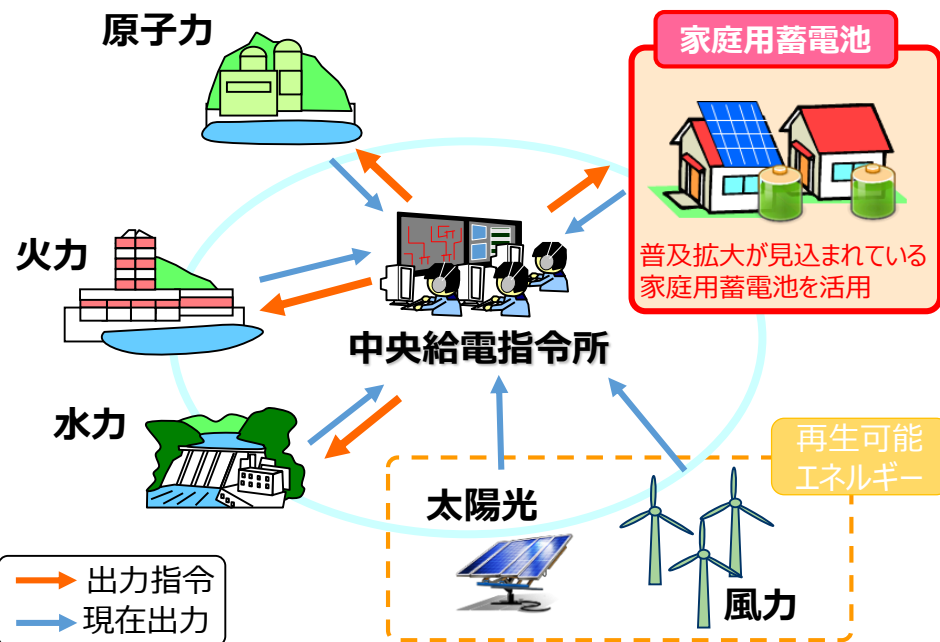
電力の需給調整に必要となる共通基盤システムの開発・調査・研究・接続実証を実施。

- ・実フィールドにエネルギーリソースを設置し、サービスを念頭においた通信・制御テストを実施。
- ・アグリゲータとリソースアグリゲータの連携を図り、幅広いエネルギーリソースを制御できるシステムを構築。
- ・蓄電池の残存性能評価に向けたアルゴリズム検討、課題の抽出。
- ・**家庭用蓄電池を群制御し、周期が短い負荷変動に対応した調整力を供出する制御システムの仕様検討。（次項で詳細説明）**

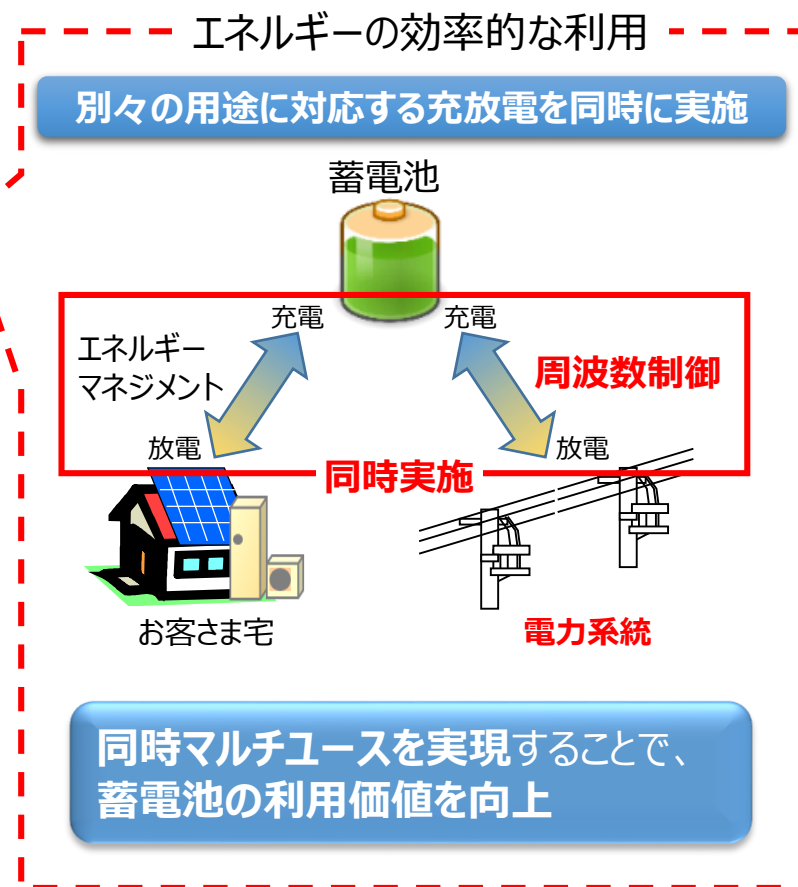
※1 送配電事業者や電力市場等に対して電力取引を行う事業者。
アグリゲータがリソースアグリゲータの役割も担う場合もある。
※2 アグリゲータの指令に基づいてエネルギーリソースを制御する事業者。

多数の家庭用蓄電池を高速制御し、周波数制御に活用する国内初の取組み

【家庭用蓄電池の活用イメージ】

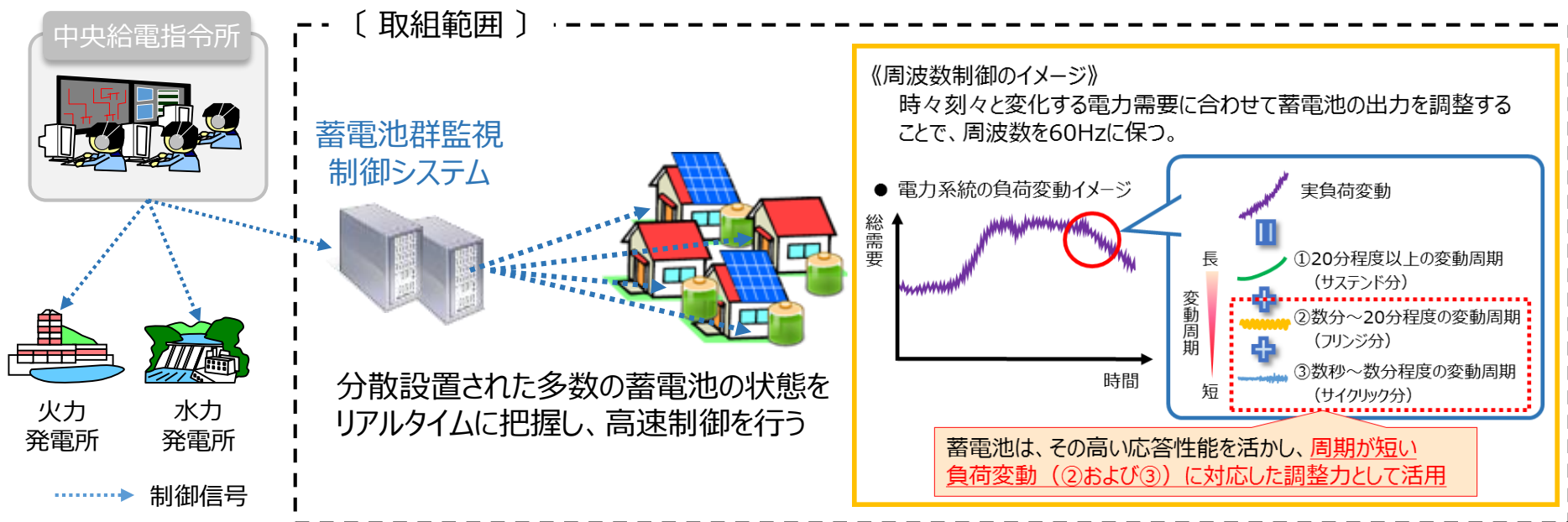


時々刻々と秒単位に変化する電力需要（電気の消費量）に合わせ、多数の家庭用蓄電池を高速制御することで、調整力の多様化を実現



取組み概要

蓄電池の利便性（夜間にためた電気の日中利用や太陽光発電との併用、災害時などの非常用電源）は確保したまま多数の蓄電池を高速制御し、周波数制御に活用するシステム等を開発する。



本取組みを通じて、同時マルチユースを実現し、蓄電池の利用価値を向上させます。
また、多数の蓄電池から継続的に調整力を創出し、その調整力を一般送配電事業者へ提供することで、電力システムの安定化に寄与するとともに、お客さまが経済的メリットを得られる機会にもつながるものと考えています。